

## これまでの委員会における主なご意見を踏まえた論点整理

## 1 コンセプトについて

- 市庁舎は市政を反映するものであり、市の総合計画等に照らし、「市の根本がこうなので、それを実現するために庁舎をこうする」ということをコンセプトの段階から明らかにした方が良い。
- 仙台市としてどうありたいかを体現することは勿論、市民の側の、仙台市にこうあって欲しいという希望を体現する庁舎であって欲しい。
- 地域特性の定義は難しいが、採り入れて欲しい。今の市役所は用事がないと来ない。ふらっと立ち寄りたくなるような、そこでサブ的に地域の理解を深められるような場所であってほしい。
- 仙台らしさというものは出すべきで、改めて仙台らしさとは何かを考える必要がある。
- 防災性のある庁舎が必要。
- 新庁舎を防災教育の教材として、市民や子供たちが免震装置等の実物を見ることができるようにしてほしい。
- 利便性の部分では、庁舎の内部よりも庁舎へのアクセスが課題であり、地下鉄勾当台公園駅と新庁舎との地下直結を希望する。新庁舎等を經由して青葉区役所やアーケードの方に移動できると便利だ。
- 市民から見て利便性は重要で、また、市民・地域への貢献は行政としてやらねばならないものだ。
- セキュリティのことはあるが、市民が入りやすい、親しみやすいものとして欲しい。
- イベントを開催する立場としては、商店街との連続性もあり、市民広場は非常に良い場所である。市民広場でイベントを開催したいという需要は多く、新庁舎がどの立地になったとしても、賑わいの維持が可能となるよう配慮すべき。

## 2 立地について

- 勾当台地区以外には考えられない。
  
- 勾当台のエリアの内部については、現庁舎敷地か公園かという二者択一ではなく、その中間案的な、例えば市民広場との間の道路を廃道して、そこに庁舎を建てるという案があってもいい。
  
- 定禅寺通、市民広場、市役所の 3 つをどのように結び、相乗効果を持たせるかも検討する必要がある。

## 3 事業手法について

- マンションとの複合化は、苦勞の割にはあまりリターンがないと思う。
  
- 音楽ホールの位置付けや立地は定まっていないが、何か特別な要請がない限り、複合化は難しいのではないかと思う。

## 4 機能と規模について

- 行政・議会・災害対策の各機能や性能は、他都市と差が生じない。市民利用・情報発信をどのように考えるかが、仙台らしさを考えることに繋がってくる。
  
- 市民利用・情報発信機能が 500 m<sup>2</sup>というのは、最初は小さいと感じたが、セキュリティや管理面のことを考えると、市街地にある様々な市民利用施設が本庁舎の中に入らなくても良いのではないか。セキュリティと市民利用との両立を図るのならば、棟を分ける方法もある。

## 5 整備方針について

- 市民広場に対する圧迫感はない方が良い。建物が取り囲むことで生じる日影や気温差は、広場を使う側にとって良いものではない。広場には開放感が重要だ。
  
- 行政棟と議会棟とが分かれている現状では、議会棟に行く機会はかなり限られる。市民が何かの用事で市役所に来たとき、行政と議会が一緒であれば、ふとしたきっかけで市民が議会を見ることができる。開かれた議会を目指すのであれば、行政と議会は一体の棟であるべきではないか。
  
- 議論の中では市民広場のことが大変重要なものとなっている。広場を大きくするという前提で考えるのであれば、庁舎は西側に寄せ、東側を空けるべき。また、今の本庁舎の敷地の中でも、新庁舎の整備は十分可能であり、廃道には賛同できない。
  
- 廃道や下水道のことを考えれば、建物としての庁舎を、今の敷地内に建て替えることは与件も同然であると思う。しかし、あり方・考え方としての庁舎を、今の敷地内だけで完結させることは避けるべき。定禅寺通りはこれから活性化に向けて盛り上げていくという流れだが、市民広場は庁舎整備とスケジュール等でどのように関係するのか。関係性等のご説明をいただき、（市民広場も検討がなされるという）安心感を与えてほしい。